

🔔 安心して暮らしていくために 🔔

はじめに

我が国では、少子高齢化が進み、平成29年の65歳以上の高齢化率は27.7%と4人に1人以上の割合となり、「超高齢化社会」になりました。(平成30年版高齢者白書)

さらに、1人暮らし世帯と高齢者世帯は年々増加し、核家族化、地域交流の希薄から孤立死等の問題も取り沙汰されています。

秩父別町においても少子高齢化が進み、平成30年4月1日現在の高齢化率は41.4%と国の比率を大きく超え、1人暮らしの高齢者は200人を超えて全人口の約1割となりました。

こうした中、秩父別町では、高齢者がいつまでも安心して暮らしていけるよう「秩父別町シルバー見守り協議会」を設置し、町民と一緒に「安心して暮らせるまちづくり」を考えていきたいと思っています。

「秩父別町シルバー見守り協議会」は…

平成25年度に発足し、見守り講演会、住民意見交換会、地域の役員との連絡会などを行ってきました。

平成26年以降、高齢者宅にかかわる団体・事業所と「見守り協定」を結び、異常の早期発見と安否確認を行います。

これからも、安心して暮らせるよう地域の力を総動員できる体制をめざします。

見守り協定ネットワーク

日常業務の中で心配なことがあれば、役場住民課(地域包括支援センター)か社協に連絡します。

秩父別町商工会	JA北いぶき	秩父別郵便局	早川新聞販売所
曾我金物店	秩父別急便運送	三共ハイヤー	空知ガス
コープさっぽろ	北海道電力	佐川急便	ヤマト運輸
セコマ	ニコット	14か所と協定。商工会会員も含まれます。	

住み慣れた地域でお互いに助け合い、
孤立しないようにしましょう



🔔 見守り活動とは… 🔔

『ひと声かけて、コミュニケーション』『そっと見守り』

町内にお住まいの高齢者等に対して、ふだんの生活の中で民生委員等のほか、「あいさつ」「声かけ」「生活の様子を気にかける」といった「コミュニケーション」や「そっと見守り」を通じて共に支え合って、安心して暮らし続けることができるまちにしていきたいと思います。

自分では…

- ・家の中だけに閉じこもらず外出して、趣味やスポーツ、ボランティアなどに参加しましょう。
- ・日頃から食事や通院など、健康管理に気をつけましょう。
- ・困った時は、家族や友人ご近所、地域包括支援センターに相談しましょう。
- ・万が一に備えて、緊急時の連絡先をご近所や友人に伝えておきましょう。
- ・ちっぽQ救ボトルを置きましょう。

家族は…

- ・離れて住んでいても、電話などでお互いの近況を話しましょう。
- ・万が一に備えて、ご近所や友人などにも緊急時の連絡先を渡しておきましょう。

ご近所では…

- ・回覧板を手渡しするなど、日頃から声をかけ合うようにしましょう。
- ・普段とちがう様子がないか、そっと見守りましょう(家の様子や本人の体調など)

町内会等では…

- ・日頃から、あいさつなど声をかけ合いましょう。
- ・町内会や老人クラブなどでの行事に誘い合いましょう。
- ・家を訪問して声をかける、定期的に巡回するなどできることから始めてみましょう。

たとえば
こんな
こと…

- 夜でも電気がつかない
- 昼でもカーテンが閉まっている
- 同じ洗濯物が干したままになっている
- 新聞や郵便が何日もたまっている
- 何度訪問しても会えない…



お互いが負担や不安を感じないように、心地よい関係を築いていきましょう!

気になることがあれば役場住民課(地域包括支援センター)または町社会福祉協議会にご連絡下さい。どちらも電話(0164)33-2111